

令和3年度 自己評価書・学校関係者評価書

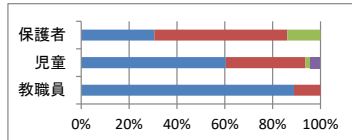
■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進		
1 一人一人の児童生徒の尊重 学校は、一人一人の子どもを大切にした指導や対応ができていますか。	2 道徳・心の教育の充実 学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)	
【学校から】豊かな心をはぐくむ教育について、教職員は毎週金曜夕会での「児童理解」において児童の共通理解を図るとともに、全職員で児童の困難の理解と適切な支援に努めてきた。さらに12月には「親子道徳の日」を実施し、親子で感想交流をする取組や「自分も相手も大切にコミュニケーション」についての学習を行った。「一人一人の児童生徒の尊重」では、児童と教職員は100%、保護者は95%が肯定的な回答であった。また、「道徳・心の教育の充実」でも、保護者の95%が肯定的な回答であり、昨年度あった「そう思わない」の回答は0となった。今後も家庭や地域と連携しながら豊かな心をはぐくむために、すべての教育活動の中で意図的に取り組んでいきたい。		
②確かな学力を育む教育の推進		
3 授業力向上 先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	4 ICT活用 子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。	
【学校から】わかる授業、楽しい授業づくりについて、昨年度の保護者の中には約5%は「そう思わない」という回答があったが、今年度は保護者、児童、教職員ともに100%肯定的な回答であった。日頃の児童の様子や学校からの発信などから、授業づくりの工夫が保護者に伝わったと考えられる。ICT活用については、児童の中にはタブレットを「あまり活用していない」と自己評価している児童が2%（1名）いたが、他は「活用している」と回答している。教職員では、校内研修や自主研修にてタブレット活用研修を重ねており、必要感のある効果的な使い方をするように努めている。今後はICTを活用し、さらに「子どもが自ら学びとる」授業づくりの工夫について研修を深めていきたい。		
③特別支援教育の推進		
5 学校の支援体制 学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	6 共生社会を担う人材の育成 「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。	
【学校から】特別支援教育の推進については、どちらの取組も保護者の95%が肯定的な回答であった。毎週の夕会では「児童理解」を位置づけており、気になる児童の状況について全職員がタイムリーに共有し、次の週は全職員でその児童をみつめていくこととしている。そして週末に児童の状況を確認するというサイクルを重ねている。また、必要に応じて関係者でケース会議を開催してチームで支援の在り方を検討し、その内容は全職員で共有するなどして支援体制を整えている。また、「交流及び共同学習」については、通常の学級児童にみどり学級について担任から紹介し、低学年は特別支援学級との交流会で共に楽しい時間を過ごした。今後も共生社会の実現をめざし、多様性を受け入れお互いに助け合うあたたかな風土の学校づくりのために取組の工夫を継続していきたい。		
④子供達の身近な安全対策の充実		⑤最適な学習環境の整備
7 安全と事故防止 学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	8 家庭や地域との連携協力 学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。	
【学校から】本校では一学期に全ての危機管理マニュアルの見直しを行い、全職員で共有している。また、警察署と連携しての交通教室の実施、登下校時の安全指導、避難訓練等にも力を入れている。安全教育については保護者、児童ともに90%以上肯定的な回答であった。児童の2名は「安全に気をつけていない」と回答しているため、引き続き安全指導に力をいれ、児童の安全確保に努めていきたい。		【学校から】昨年わずかにあった「思わない」という回答は0になり、家庭や地域との連携は保護者の95%が肯定的な回答であった。新型コロナウイルス感染防止のため実施できなかった活動もあり、直接の交流が減ってきている状況である。今後も、学校の取り組みについて学校だより等での情報発信やオンライン懇談会の開催など、保護者や地域との連携を深めるための工夫をしていきたい。

本校の教育

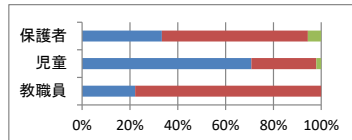
9 情報交換

d 学校は、「わたしも大切、みんなも大切」の経営方針を、児童・保護者・地域に分かりやすく示していると思いますか。



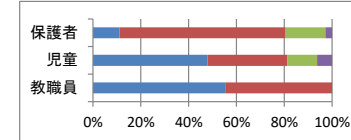
10 重点事項

d 子供たちは自分と周りの人たちを大切にしていると思いますか。



11 4小1中の連携

d 学校は、天明4小1中の交流を、積極的に進めていると思いますか。



【学校から】教職員は年度初めから学校教育目標の実現のために三部会を構成し、「徳」「知」「体」それぞれの部会で具体的な取り組みを検討し共通実践してきた。そのため職員は100%理解している。しかし、保護者・児童は8割以上は支持しているものの、「分かりやすく示していない」という回答が1割程度見られた。今後は、学校の方針をさらに分かりやすく伝える工夫をする必要がある。
自分と周りの人を大切にしていると思うかについては、95%の保護者が「そう思う」と回答している。天明4小1中の交流については、保護者も児童も81%肯定的な回答であった。家庭や地域にその取り組みの意義やねらいについても情報発信し、今後も積極的に交流を進めていきたい。

来年度の具体的な取り組みについて

- 保護者と教職員との「そう思う」の意識の違いが見られるため、今後はホームページ等で学校の取組を積極的に発信していく。
- 「豊かな心をはぐくむ教育の推進」について、きずなアンケートや教育相談を継続し、今後も継続的に児童に寄り添っていききたい。また、家庭や地域と連携して道徳教育を推進していく。
- 校内研修では「少人数における一人一人の学びの深まりをめざして」というテーマで授業づくりに取り組んだ。研究のまとめをもとに成果と課題を整理し、次年度以降の取組につなげることができるようカリキュラム・マネジメントを進めていく。また、タブレットをさらに活用し、教師が「教える」から児童が「学びとる」授業へ、授業改善をさらに進めていく。
- 今年度の体力テストの結果を分析し、継続的な体力向上の取り組みと、「体力づくり」の時間に行う内容を工夫する。
- 児童が基本的な生活習慣が身につけられるように、「すくすくファイル」を活用し、家庭と連携していく。
- 本校は、いじめや不登校児童はいない。しかし、自己表現や反応がうまくできなったり、自分も相手も大事にしながら自分の気持ちを上手に伝えていくコミュニケーション力は不足している。今後は、コミュニケーション力の向上や対人関係を築くスキルの向上に取り組む。
- 生活のきまりの見直しを行った。児童が自分たちのきまりは自分で考えて守ることができるように、また、自ら考えて行動する児童の育成のために、今後も定期的に見直しを行い、児童の意見を取り上げ検討していくような教育活動を展開していくようにする。
- 教育方針については、学校だより、学級通信、PTA総会等、あらゆる機会を活用して情報発信していく。
- 熊本市学力調査の結果を分析し、課題に対する対策を検討し、来年度確実に実践する。

学校関係者評価

- 【学校評議員から】
- どのクラスも元気いっぱい。タブレットを活用していて驚いた。
 - 英語の授業が楽しそう。あんな授業をしてもらおうと子どもたちは英語が好きになると思う。
 - きずなアンケート等、子どもの思いを尋ねるアンケートでは、子どもたちが自分の思いを先生に伝えられるように、自由記述欄を設けておいてほしい。
 - 地域の人に対するあいさつをがんばってほしい。
 - 昨年度は自転車教室（交通教室）がなかった。本校児童は中学校には自転車通学になるため、自転車の乗り方について指導してほしい。
 - 学校が統合されることは寂しい。